

子どもと一緒に調理を
楽しめるようにとダイニ
ングに設けられた段差、
家族の団欒と家事を切り
離すことなく行える「2
階リビング」、夫が好き
な自転車やアウトドア用
品を置いたり、DIYが
できる土間――。

これらはポラスマイホ
ームプラザ（埼玉県さい
たま市、中内啓夫代表）
が埼玉県さいたま市見沼
区に開発した「アクティ
ブスタイル大宮・大和田」
（全18棟、9月12日グラ
ンドオープン）のモデル
ハウスに採用された機能
だ。いずれも埼玉県内居
住の各分野で仕事を持ち
ながら子育てをする女性
11人の望みを実際の分譲
住宅で形にした。

女性のアイデアを住宅に

パパ、ママ、子ども、それぞれが主役の家



親子の目線が合いやすいDK

設計の元になったアイ
デアや意見を出したの
は、1人息子を東大に現
役合格させたことから
「東大脳育成コーチ」と
して活躍する谷亜由未さ
んをはじめ、数字統計学研
究家、マーケティング、カ
ラーコーディネーターな
ど。3チームに分かれ、
各チームに設計者、営業
担当者が加わり、昨年12
月から検討してきた。
モデルハウスは「ママ」
の「パパ」「子どもたち」、
家族それぞれに焦点を当
てた3タイプを揃えた。
仕事をしながら子育て
をする「ママ」の日常を
サポートする住宅は、
「2階リビング」を採用
し、洗面、浴室、ランド
リ、キッチンなど水回り
を2階に集中させた。ラ
ンドリーコーナーからも
ベランダに出られるた
り、親子の目線が合い
やすいDK

め、家事動線がスムーズ
だ。日用品をストックす
るにも便利な「シューズ
クローク」やゴミ置き場
に使えるサブベランダな
ど、日常生活への配慮が
行き届いている。

「子どもたち」が主役
のタイプは、対面キッチ
ンに立つ親と子どもの双
方が使いやすいように、
ダイニング側の床を20cm
高くしている。親子の目
線が合いやすく、作業が
しやすい高さにしたとい
う。2階には子どもが小
さい時期には川の字に布
団を敷いて寝ることがで
きるフリースペースを配
置。子どもが成長した頃
には間仕切り壁を用いて
2部屋にできる。このモ
デルハウスは「子どもの
五感を刺激する家」とし
てデザインされた。